

# 学級活動指導案

## 1 活動題「5の！スーパーちょボラ隊 大作戦」

議題 「5の！スーパーちょボラ隊 大作戦」の計画を立てよう

## 2 議題設定までの経過

- 本学級は、「未来へ～かがやく笑顔・元気・ちょうせん～」が学級目標である。この目標には、学級はもちろんのこと、学校のために自主的に働き、喜びを味わえる集団を目指すという願いが込められており、学級では日々の生活の中で、この学級目標の実現に向けて様々な活動に取り組んできている。1学期は、運動会の係活動や委員会活動、クラブ活動を通して学校全体のために役立つことにやりがいを感じて取り組む子ども達の姿が見られた。そこで2学期は、子ども達が最上級生になる自覚を持つための準備期間として、みんなで学校の役に立つ取り組みを行い、高学年としての意識を高めることができるようにしたいと考えていた。9月 日～ 日には、児童会活動である「ちょボラ活動」に取り組んだ。その後、議題ポストに「ちょボラ活動は短い期間だったので、もっと学校をよくするためのボランティア活動をしたい」という議題案が入れられていた。そこで計画委員会を開いて議題案について話し合い、本議題について話し合うことが決定した。本議題は、学校のために役に立つ取り組みについてみんなで話し合い、実行し、高学年としての意識を高めていく上で意義深いと考える。
- 本学級の子ども達（男子 名、女子 名、特別支援学級在籍の交流児童 名、合計 名）は、明るく元気で、男女の仲もよい。5年生から取り組み始めた委員会活動に熱心に取り組む、学校全体のためを考えて行動する高学年生としての自覚が育まれつつある。しかし、委員会活動は二ヶ月に一度の活動なので、もっと継続的に取り組める活動を通して、最高学年としての意識を高めさせたいと考えていた。学級会では、意欲的に取り組む子ども達の姿が見られ、回数を重ねる毎に司会の仕方や発表の仕方を身につけ、計画的に進めることができるようになってきている。しかし、1学期のアンケート結果では、自分の意見を発表することに難しさを感じている子どもが 名いた。そこで2学期の話合い活動では、一人一人が自分の考えを持ち、お互いの考えのよさに目を向けて、みんなでよりよい集団決定するというを大切にしている取り組みを行ってきている。本議題では、話し合うことを通して自分の考えに自信をもち、お互いの考えのよさを認め合いながら学校をよりよくしようとする姿に迫りたい。スーパーちょボラに組み、継続していくために工夫・協力し、達成する中で、最上級生を目指す高学年としての自覚を持つことができるようにしたい。
- 事前の活動では、お互いの考えのよさを認め合う気持ちを持たせるために、毎日帰りの会に「友達のよさみつけ」を行ったり、学級会において、「○○さんの考えは、□□というところが、いいと思いました。」というように、友達の考えのよさを認める発言をした子どもを、教師が賞賛したりしてきた。また、みんなで学校をよりよくしていこうとする気持ちを持たせるために、委員会活動での取り組みについて、活躍する子ども達の姿を褒め、励ましたりしてきた。そして、本議題について学級会を開くにあたり、計画委員が議題説明会を開き、議題が決まるまでの経緯と提案理由をみんなに説明した。そこで活動内容のアイデアを募集したところ、15のアイデアが出た。そこで計画委員会では、「学校全体のために役立つ活動」という視点で、4つのアイデアを選び、選定の経緯をみんなに説明した。そして、全ての子ども達が学級会において 信を持って自分の考えが発表できるようにするために、予め個人ノートに自分の考えを書くようにし、教師、子ども達が自分の考えのよさに気付くように、書きこみをした。

事中の学級会では、1つの活動を決定する話し合いを行う。（選択型）話し合いがうまく進まず軌道修正が必要な場合には、司会者が提案理由や話し合いのめあてを振り返らせ、よりよい集団決定が目指せるようにする。

事後の活動では、責任をもって意欲的に活動できるようにするために役割分担や計画表を活用したり、達成感を味わうことができるようにするために一人一人の頑張りを認めるような記録を掲示したりする。また、「自分達は高学年として、学校をよりよくしている」という気持ちをもつことができるようにするために、教師が、学校全体がよくなってきている様子を認める声かけをする。

### 3 目標

- 自分の考えをもって、お互いの考えのよさを認め合いながら話し合いに参加し、決まった活動に、責任を持って意欲的に取り組むことができる。 (関心・意欲・態度)
- 学校をよりよくしていくために活動計画や内容を考え、集団決定していくことができる。 (思考・判断)
- 聞き手を意識した話し方で自分の考えを伝えたり、自分の考えと相手の考えを比較しながら聞いたりしてお互いの考えのよさを認め合い、話し合いで決まった活動に取り組むことができる。 (技能・表現)
- 活動の目的を理解した上で、自分の役割に責任をもって取り組み、自分や友達のよさと、高学年としての意識の高まりに気付くことができる。 (知識・理解)

### 4 指導計画

児童の活動	支援上の留意点 (○) と評価 (※)	日時
<p>1. 事前</p> <p>(1) 議題を選定する。 (計画委員会)</p> <p>(2) 議題を説明し、クラスで取り組みたい活動内容を募集する。 (全員)</p> <p>(3) 出てきた活動内容を4つに選定する。 (計画委員会)</p> <p>(4) 活動内容を提案するプロジェクトチームがアピールする内容を検討し、準備や練習をする。 (チームの代表者)</p> <p>(5) 議題説明会を行い、クラスで取り組みたい活動と、その理由を個人ノートに書く。 (全員)</p> <p>(6) 学級会のリハーサルを行う。 (計画委員会・プロジェクトチームの代表者)</p>	<p>○ 活動のよさを子ども達が理解するために、計画委員が議題や活動内容が選ばれるまでの経緯を説明できるよう指導する。</p> <p>○ みんなで学校をよりよくする活動となるようにするために、提案理由と照らし合わせて選定させる。</p> <p>○ アピールタイムが説得力のあるものになるようにするために、プロジェクトチームに提案の仕方を指導する。</p> <p>○ 子ども達が学級会において自信を持って自分の考えが発表できるようにするために、予め個人ノートに自分の考えを書き、教師からの励ましの言葉も添える。</p> <p>○ 子ども達の力で司会を進めていけるようにするために、学級会のリハーサルを事前に行い、進め方を指導する。</p> <p>※ 自分の考えをもつことができる。</p>	<p>9/ (金)</p> <p>9/ (火)</p> <p>帰りの会</p> <p>9/ (水)</p> <p>中・昼休み</p> <p>9/ ~</p> <p>10/</p> <p>中・昼休み</p> <p>10/ (火)</p> <p>帰りの会</p> <p>10/ (木)</p> <p>昼休み</p>
<p>2. 事中 (本時)</p> <p>(1) 話し合いの型—選択型</p> <p>(2) プロジェクトチーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ</li> <li>・ごみ拾い、掃除</li> <li>・窓の開け閉め</li> <li>・落ち葉拾い、草抜き</li> </ul>	<p>○ 活動のよさを理解して話し合いができるようにするために、プロジェクトチームの子ども達が発表できるように指導しておく。</p> <p>○ 話し合いがうまく進まない時は、提案理由や話し合いのめあてを振り返らせる。</p> <p>※ 友達の考えのよさを認めながら、よりよい考えを作っていくことができる。</p>	<p>10/ (月)</p> <p>【校時】</p> <p>本時</p>
<p>3. 事後</p> <p>(1) 活動計画を立て、全員で取り組む。</p> <p>(2) 活動報告会を開き、活動の見直しを行う。</p>	<p>○ 責任を持って意欲的に活動できるようにするために、役割分担や計画表を活用する。</p> <p>○ 達成感を味わうために、活動する姿や成果を褒め、記録を掲示する。</p> <p>※ 高学年として学校全体をよくしていこうとする意識をもつことができる。</p>	<p>10/ (火) ~</p>

5 本時 平成22年10月 日( ) 第 校時 教室

(1) ねらい

- 学級全体で、学校の役に立つよりよい活動を決めることができる。 (思考・判断)
- 議題や提案理由を理解した上で、自分の考えを分かりやすく説明したり、友達のよさを認めたりして、よりよい考えを生み出していくことができる。 (技能・表現)

(2) 活動計画

話合いの順序	支援上の留意点 (○) と評価 (※)
<p>1. はじめの言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ あいさつをする。</li> <li>・ 役割の紹介をする。</li> </ul> <p>2 議題と提案理由の確認</p> <p>○議題 「5の !スーパーちょボラ隊 大作戦」の計画を立てよう。</p> <p>○提案理由 高学年としてみんなで、学校のためになる活動をしたいから。</p>	<p>○ 子ども達が活動のよさを理解するために、計画委員が、予め議題説明会にて、議題と提案理由を説明しておく。</p> <p>○ スムーズに司会を進めていけるようにするために、リハーサルで進め方を指導しておく。</p>
<p>3 話合いのめあて</p> <p>友達の考えのよさを認めながら、自分の考えを発表しよう。</p>	
<p>4 先生の話</p> <p>5 話合い</p> <p>柱1 何のボランティアをするのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アピールタイム (提案)</li> <li>・ 質問タイム (質問)</li> <li>・ 交流タイム (交流)</li> <li>・ 決定タイム (整理・決定)</li> </ul> <p>柱2 長続きさせるためのアイデア</p>	<p>○ 本活動を価値付けるために、本活動が学級目標の達成の具現化を目指すものであり、高学年として意識を高める上で意義があることを伝える。</p> <p>○ アピールタイムを通して、活動のよさを伝えることができるようにするために、具体物を提示したり、ビデオを用いたりする工夫を指導しておき、プロジェクトチームが発表できるようにする。</p> <p>○ 子ども達が学級会において自信を持って自分の考えが発表できるようにするために、予め個人ノートに自分の考えを書き、教師からの励ましの言葉も添えておく。</p> <p>○ 交流タイムの中で、意見がまとまっていくようにするために、交流タイムの後半では友達の意見のよさを認めるような発言や自分の考えの変容を発表する時間となるように、司会の進行を指導しておく。</p> <p>○ アイデアが少ない場合は、周りの子ども達と話し合っで考えるようにする。</p>
<p>6 まとめ</p>	<p>※ 友達の考えのよさを認めながら、よりよい考えを生み出していくことができる。</p>
<p>7 話合いの振り返り</p>	<p>※ 提案理由と考えをつないで発表することができる。</p>
<p>8 先生の話</p>	<p>○ 決まった活動を継続していくために、教師がお互いのよさを認め合えたことを評価する。</p>
<p>9 終わりの言葉</p>	